

夢に向かって

なりたい私になるために――

大槻 ^{ゆい}夕依 さん (県北中3年)

私の今の夢は、理科の先生になることです。教わっている先生がとても親しみやすく尊敬できるので、なってみたいと思うようになりました。最近では、情報関連（IT系）の仕事にも興味が出てきました。

将来なりたい職業はこれからも変わると思っています。『その時、その時のなりたい私』になれるように頑張りたいです。

また、英語は将来において必ず必要になると思います。私は英語が苦手なので、最近では特に問題演習に力を入れて苦手意識を克服できるように頑張っています。

今後は、積極的に人と関わって社交性を身に付けていきたいです。受験勉強があるので忙しいですが、時間があればボランティア活動もしてみたいと思っています。最近では家事を少しずつ手伝えるようになってきました。

まずは、自分自身を納得させられるような大人になりたいです。そして、『なりたい私』になることができれば、どんな職業であっても周りの人を助けてあげられるような存在になりたいと思っています。



生徒会で会計を務める大槻夕依さん。「なりたい私になれるように頑張ります！」と力強く話してくれました。その姿に、未来への大きな可能性を感じる事ができました。

町長
コラム



ま
真 ころむ

【第13回】

短い手紙

「コロナワクチンを打ってから具合が悪い。謝ってください」という短い手紙が届く。文字から高齢かなど。町政を批判する匿名のハガキや手紙はあるけど、この手紙には名前と住所が書いてある。心を突かれる。事務方は慎重に対応をと言うけど、訪問を決める。前もって訪問を伝えると本人や家族が気を回すかもしれないから、連絡しないことに。

訪ねると綺麗な服を着て、綺麗な顔でベッドにいる。ふっと日ごろの家族の心遣いを感じる。心が温かくなる。訪問の理由を伝え、様子を尋ねる。95歳。3回目の接種までは何ともなかったのに4回目の直後に高熱。それ以来ベッドから離れられない。外へ出たり、庭を眺めたりしてたのにと。

家族は、接種後に具合が悪くなったのは間違いないことだけど、接種が原因かどうかはわからない。まして接種は国が決めたこと。町が謝ることではないと言ってくれる。でも、出来ていたことが出来なくなる、その悔しさを想像するといたたまれない。やっぱり申し訳なきと切なきがつる。

皆に予防接種など不要の穏やかな日常が早く来ないものかと心から思う。



引 地 真